

ノリ養殖情報 第5号

平成26年10月10日
福岡県水産海洋技術センター有明海研究所

研究所持ち込みのカキ殻は、一部で残りのタネの量が少なめとなっている殻もみられていますが、全体的には、残りのタネの量は5割以上あるものが多い状況です。

採苗に向けては、以下のことに注意してください。

1 採苗前日の注意点

- ・ラッカサンにカキ殻を入れる際は、カキ殻の乾燥と地面の温度に注意してください。屋外で殻入れ作業をする場合、風によって殻が乾かないよう十分注意してください。

2 採苗時の管理

- ・採苗は10月15日の午前3時以降の出港です。
- ・比重が低いとタネがつきにくくなります。台風による降雨で比重低下のおそれもあります。今年の採苗は、タネの放出が干潮前後の時間帯になりますので、比重の安定した漁場で採苗を行ってください。
- ・採苗日(15日)から19日までは網の水位は、吊り口で1.5mを目安としてください。
なお、この水位では干出がかからないので、健全なノリ芽を育てるため午後3時以降に1～1.5時間の人工干出を行ってください。網の乾き具合をよく観察し、乾燥不足・乾燥過多にならないよう注意してください。
- ・タネの放出を促進する場合は、夜明け前に2時間程度ラッカサンを人工干出させて冷やしてください。
- ・芽付きは、網糸1cmあたり35～50個が適正です。
(蛍光100倍1視野当たり、旧型顕微鏡は5～7個、新型顕微鏡は7～10個)。
- ・タネは午前10時頃まで付きますので、午前10時以降に切った網糸を検鏡し、芽数を判断してください。

※10月11～13日(土、日、祝日)は、研究所で検鏡を行います。
検鏡時間は、9:00～15:00です。